

2020年7月21日 Q&Awithバリー・スタグナー牧師

アミール・ツアルファティ

- 終末に関する9つの質問 -

YouTube : 2020年7月21日Q&Awithバリー・スタグナー牧師

- ▶ Q : 「マタイ24章で描かれているのは、異なる2つグループの人々の視点ですか？それとも、ユダヤ人だけなのでしょうか？」
- ▶ Q : 「14万4千人は世界に説教するのですか？それとも、ユダヤ人だけに説教するのですか？」
- ▶ Q : 「7年間の患難は、すでに始まっていますか？」
- ▶ Q : 「私達がイエスを待つときに、"私達のともしびの油を持つ"、というのは、どういうことでしょうか？」
- ▶ Q : 「黙示録6章の白い馬と、黙示録13章の反キリストの台頭には関係があるのでしょうか？」
- ▶ Q : 「エゼキエル39章で、イスラエルが燃料として武器を使い、7年間、人々を埋葬する時間枠を教えてください。」
- ▶ Q : 「携拳された時、世界にどう説明されると思いますか？」
- ▶ Q : 「"患難後携拳"の教えの情報源は何ですか？この混乱は、どこから始まったのですか？」

[アミール] 今日はマイク・ゴレイ牧師とバリー・スタグナー牧師が一緒です。お二人ともアメリカからの参加です。シャローム、マイク。

[マイク牧師] シャローム、アミール。お元気ですか？

[アミール] 元気ですよ。そして、バリー・スタグナー牧師を加えます。シャローム、バリー牧師。

[バリー牧師] シャローム、お久しぶりです。

[アミール] よろしくお祈りします。また、お二方をお迎えできることに超ワクワクしています。実際、マイク、あなたに全体の司会進行をお願いします。我々は、今日はあなたのゲストです。ではバリー牧師、お祈りで始めていただけますか。それからQ&Aに入りましょう。

[バリー牧師] 喜んで。

父よ、私達はあなたを知り、あなたのみことばを知ることができ、とても感謝しています。私達が向かうべき道を示してくださり、感謝します。義人の歩みを整えることを約束してくださっていることに感謝します。だから主よ、私達の足、心、考えを置くべき場所を、あなたのみことばを通して、私達に教えてください。どうか、この時間をお導きください。そして、あなたが栄光を受け取られますように。神に祈ります。魂を救う真理を求めている者がいるならば今日、彼らの心に語りかけて彼らをお救いください。イエスの御名において祈ります。アーメン。

[アミール&マイク牧師] アーメン。

[アミール] はい、マイク、どうぞ。

[マイク牧師] このQ&Aは、皆さんに必要な知識を授ける事が目的です。ぜひ、このビデオを転送してください。特に、YouTubeをご覧になる皆さんのために、概要欄に質問を載せておきますので、ツールとしてご活用ください。お待たせしました。技術的な問題は解決しました。進めるにあたって、皆さんが掲示板に質問をしてください。出来るだけ聖書に関する質問、特に、終末の時代や、預言に関連する、中東で起こっている問題に関する質問を、お願いします。できるだけ多くの質問を受けます。全部には答えられませんが、管理人が掲示板を見て厳選しています。ですから、どうかお気軽に質問してきてください。我々は真っ直ぐお答えします。最初のご質問は、ケリーからです。ご質問くださり、ありがとうケリー。ケリーからの質問は、

Q：「マタイ24章で描かれているのは、異なる2つグループの人々の視点ですか？それとも、ユダヤ人だけなのでしょうか？」

最初にアミールに直接聞かなくてははいけませんね。なぜなら彼は（私達は）文字通り今、オリーブ山の説教についてのメッセージを書いているので。

[アミール] 実際、私は来週オリーブ山の頂上からそれについて教える予定です。オリーブ山の説教は、イエスが3つのことについて教えています。信者...ユダヤ人であり、当時のローマの占領下でイスラエルの地に住んでいたイエスの信者たちが、終わりの時について質問をしました。ですから、覚えておかなければなりません。彼らはユダヤ人として話をしましたが、主の来臨について話しました。言い換えれば、メシアです。彼らは、メシアを信じていました。彼らはまた、終わりの時のしるしなどについても話しました。だから、イエスの答えは3つに分かれます。(A) イスラエル国民、(B) 信者たち、そして(C) 残りの世界に向けて。したがって、2つのグループではなく、実際には3つのグループです。未信者の世界、イスラエル国家、そして教会。しかし、教会についても、イエスは、「あなたがたが見るとき」とか、「しかし、あなたがたは」など、「あなたがた」という言葉を使っておられます。勘違いしないでください。イエスは、必ずしも1世紀の信者である「彼ら」に向かって語っているわけではなく、将来起こる事の答えとして「彼ら」に向かって語っているのです。たとえば、神が申命記で「あなたは選ばれた民」と、イスラエルの民に言われたとき、(申命記7:16、14:2参照) 当時のイスラエルの民の、あの特定の世代だけが「選ばれた民」だという意味ではありません。「あなたがた」という言葉は、明らかに未来のことも言っているのです。ですから、これらのことをすべて理解すると、マタイ24章と25章のオリーブ山の説教は、イスラエル、教会、世界に関連する質問に対するイエスからの直接の答えであり、一つのグループの人々だけではないことが分かります。これが私の答えです。もちろん、私達がそれについて教えるとき、私達はこれらの部分のありとあらゆるものについて、詳しく説明します。なぜ、私達は簡単に間違えて、イスラエルに書いたことが実は教会のために書かれたもので、教会に書いたことがイスラエルに当てはまると考えたり、あるいは、未来について書かれている事を、過去について語っていると考えるてしまうのか。人々は、文脈から部分的に取り出し、御言葉や記述を注意深く調べません。例えば、「ユダヤ」、「安息日」、「山」、「冬」イエスが、特定の場所や特定の時間について具体的に語っておられるとき、間違いなく、イスラエルの未来について語っておられるのです。明らかに、イエスはオランダの人々に山のことを話すことができませんし、明らかに、そこでは通用しません。また、インドネシアは必ずしも安息日を気にしません。そのため、それぞれの部分を吟味して、間違ったグループにラベルを貼らないように、細心の注意を払う必要があります。

[マイク牧師] ええ。バリー牧師、私が12人の弟子の一人で、ゼカリヤ書やダニエル書を知っていたら、国とエルサレムの運命について疑問に思うでしょうね。彼らがヘロデ神殿の栄光を見ていると、将来についての疑問が湧いてきました。彼らはユダヤ人国家のためのこれらの預言を知っていました。そして、私も、疑問に思うでしょう。イエスが、そこでミニストリーを終えられるにあたって、私は不思議に思うでしょう...どうするおつもりですか？これは何を意味するのでしょうか？さて、ケリーの質問をどう受け止めますか？

[バリー牧師] そうですね、アミールが言ったように、文脈の中で見る必要があると思います。そして、イエスに話しかけたこのグループを思い出すと、ご存知のように二組の漁師の兄弟で、ある種の特殊なカテゴリーの人々でした。その意味で、彼らはイスラエル人であり、主が弟子として選んだ、教会時代以前のユダヤ人でした。しかし彼らは、教会の創始者でもありました。だから文脈は...、最初にペテロとアンデレ、ヤコブとヨハネがイエスに質問したとき、彼らは、単にイスラエルの代表者ではなかったのです。彼らはまた、教会の代表者でもありました。ですから、これらの会話の中で繰り広げられる文脈と、その内容を調べていくと、イエスが、イスラエルの国のことをはっきりと語っておられることがわかります。そして、その質問に対する答えに、主が取り入れた次のフレーズが多くを物語っていると思います。「洪水前の日々...」(マタイ24:38) つまり彼は、ダニエルの第78週の文脈の外に出て、ダニエルの70週の患難期間、または成就につながるものを含めておられます。ですから、そうですね。私は100%同意します。オリーブ山の説教を、イ

スラエルだけに限定することはできないと思います。教会も含まれています。それは明らかに大患難の聖徒への情報を持っています。それから…、私が面白いと思うことの一つに、見落とされがちですが、いちじくの木とイスラエルとの関係を基本的に否定する人がいます。しかし、ヨエルもホセアも、イスラエルの国の慣用語としていちじくの木を使っていました。そして、イエスが、いちじくの木に遭遇し、そこに、実がないのをご覧になる状況がありますが、これは、不信仰なイスラエルを象徴しています。（マタイ21:19参照）イエスがこれに遭遇されたのは、受難週の間でオリーブ山の説教をされた2日前でした。ということで、月曜日から始まって、彼は実のないいちじくの木に遭遇され、火曜日、彼は実のないいちじくの木に遭遇し、それから水曜日に、彼は「いちじくの木からたとえを学びなさい」とおっしゃいます。彼は同じ週に、同じ文脈で、同じ人たちに話しているのですから、そこには意味があって、月曜と火曜と同じ意味であるはずで、つまり、いちじくの木は、実のないイスラエルを表しているのです。「枝が柔らかくなって、葉が出て来る」とは、国家の誕生と、それから、患難に入り、最後に彼らが突き刺した方を仰ぎ見ることを語っています。（ゼカリヤ書12:10参照）ですから、そうですね。ダニエル書の70週目を重く扱っていますが、厳密にはイスラエルに限定されているわけではないと思います。神は、イスラエルをご自身のもとに引き寄せて、イスラエルの国を完成、あるいは火で清められ、主の地上再臨の際、彼らをご自身の元に引き寄せられて、彼らは突き刺した者を仰ぎ見て、泣きます。

【マイク牧師】 ああ、ありがとうございます。お二人がおっしゃったことに感謝しています…ええ、アミールが言うように、これには前例があります。「あなたがた」とは、「あなたがた、ユダヤ人」を意味していて、旧約聖書の特定の箇所が書かれた、当時のその世代だけではなく、全体を指しています。

次の質問は、セリアからの14万4千人に関するものです。

Q：「14万4千人は世界に説教するのですか？それとも、ユダヤ人だけに説教するのですか？」

アミール？

【アミール】 さて、我々は、彼らが世に出ることを知っています。それから、ユダヤ人だけが世界にいるわけではないことも知っています。しかし、イスラエルの12部族から出てくるというのは理にかなっていません。そこに、ある種、重大な意味があるのです。ユダヤ人は、どこかの異邦人よりも、イスラエルの12部族出身の人の話に、より耳を傾けます。だから、いつものように…この2000年は異邦人の時代でしたが、それでも、わずかながらも、ユダヤ人も信仰を持ったと言えるのと同様、時が来て、教会がなくなれば、大患難の時代は、イスラエルの救いのためです。その間に、確実に、ユダヤ人以外の人も信仰を持つと思います。しかし、繰り返しますが、具体的にイスラエル12部族の中から、彼らを迎えることの重要性は、彼らが、おもにイスラエルの人々に直接伝道する事の、ヒントであると思います。

【マイク牧師】 バリー牧師、この14万4千人が伝道者になるという証拠がないと言う人もいます。しかし、黙示録には具体的に「神のしもべ」（7:3）と書かれています。主を分かち合うことなく、どうやって主に仕えているのか、私には分かりません。ただどこかの洞窟に座って、この14万4千人のうちの1人として存在できるのでしょうか？あるいは、どうなるのでしょうか？彼らが経験し、彼らが伝道する地は、どのようななるのでしょうか？それがどのようなものなのか、例をあげて教えてください。

【バリー牧師】 そうですね、マイク、一つ覚えておかなければならないのは、過去に真実だったことは、現在も真実であり、未来のその時にも、真実だということです。信仰は、神のみことばを聞くことによるのです。患難期には、数えきれないたくさんの人が、あらゆる国民、部族、民族、国語の中からはいます。（ローマ10:17、黙示録7:9参照）誰かが、彼らに説教しているはずで、そして、福音伝道の最後は、御使いが中天を飛んで永遠の福音を説き、人々に悔い改めを呼びかけます。（黙示録14:6~9参照）しかし、このミニストーリーには、今、人々が救われているのと同じ手段が含まれており、それは神のみことばを説くことです。だから、それがどんな風に見えて、どうやって路上で行われるのでしょうか。私達は、ここにいないでよかつ

たと思います。しかし、非常に明確に、それは伝道の召命となるでしょう。この人達は、取り分けられた者を代表します。神が、人を分けられるのを見てみると、神は、弟子たちを特定の召命のために、特別に定められました。そして彼らは初め、主に付き従い、主から学び、その後、主が残したミニストリーを、ある意味で引き継いで、聖霊の臨在によって力を受けたのです。そして、大患難時代にも同じようなことが起こるでしょう。イスラエルの各部族から1万2千人の人々が出て来ます。それについても疑問がありますが、それはまた別の機会に。しかし、彼らのミニストリーは明らかに、私達がこの時期に召されたことを行うことです。イエスのことを人々に伝え、福音を説くことです。

[アミール] あと、一つ言いたいことがあります。少し前に、私は二人の証人の話をしましたが、覚えていますか？二人の証人がいる間は、まだ神殿があり、ユダヤ人が神殿で礼拝していました。従って、それは、大患難の前半の3年半で、最初の1260日です。次に14万4千人が出て来て、これは、おそらく後半です。前半では言及されていませんから。そして、神は常に、この地上にいる人々に、神とメシアのことを世界に伝えるようにしていることがわかります。だから、「誰も教えてくれない時代に生きていて、メシアのことを知る術がなかった」とは、誰にも言えません。というか、ありえません。はい、天はすべてを宣言しています。そう、天地創造はすべてを宣言しています。しかし、神はその特定のこのために、特定の資格のあるミッション指向の人々を残しています。そして、それが美しいところです。神は、誰の事も、あきらめておられないのです。もし、誰かが、裁きの大なる白い御座にたどり着いて、火の池に投げ込まれるとしたら、それは、その人が何度も何度も何度も何度も、神が与えてくださった、悔い改め、神のものとなるチャンスを拒み続けたからです。だから、それが重要なのです。

[マイク牧師] ええ、確かに、大患難の期間に信仰を持つ人は誰でも、こんにちとは対照的に、代償を考えなければなりません。なぜなら、そこで起こるのであるう不法と、神に反逆する環境、事実、文化に影響力を持つ教会が、全く存在しないのですから。今こそ、福音を分かち合う時です。しかし、大患難の中にも福音が伝えられます。そこから、マークの質問につながります。

Q：「7年間の患難は、すでに始まっていますか？」

バリー牧師、私達は今大患難期にいますか？確かに、そのように感じるかもしれませんが、実際の大患難の時代の現実について教えてください。

[バリー牧師] ああ、マイク、その質問には感謝していますよ。素晴らしい質問です。人々はしばしば、この人生には患難があるという事実を混同しています。しかし、患難（小文字のtribulation）と大患難（大文字のTribulation）は、全く別物です。いいえ、今は大患難ではありません。なぜなら、不法の人が明らかにされるためには、私達が、いなくならなければなりません。黙示録6章で、実際に大患難が本格的に始まると、反キリストは白馬にまたがって、契約を手に世界の舞台に躍り出し、ダニエルが預言した7年間の契約を確立します。したがって、第二テサロニケによると、教会は不在でなければならず、その間、私達はいません。ですから、大患難が始まっているということは聖書的にありえません。現在の人生で、今、私達は患難の季節にあって、グローバルという意味では前代未聞だと思えますが。私達は歴史の中で、教会の一員として物事に対処してきましたが、今は世界が同じパンデミックを経験していて、同じ苦難、経済的損失やそのような性質のものを経験しています。病気や命の損失は言うまでもなく、世界中で同時に起こっています。ですから、疑う余地もなく、患難はやって来ています。しかし私達は、疑うまでもなく、その中には入っていません。

[アミール] はい、私達は今、産みの苦しみの中にあると思います。私達は、実際の大患難の前に起こるとイエスが言われたこれらのことを、すべて見ています。しかし、私はいつも言うのですが、「これが悪いと思うなら...」

[マイク牧師] そうですね。

[アミール] ほら、マイク、私はよく覚えています、9.11が起こったとき、私はニューヨークにいました。実際、私は前の晩、あのタワーの上のいたのです。そして、よく覚えています、翌週、人々が口々に言っていました。「これは、アメリカに対する神の裁きだったのでしょうか？」ただ、当時、私が持っていたすべての情報から…、最初の数日間の事ですが、私はイスラエル、ドイツ、あちらのアメリカの空軍基地、それとアメリカの私の情報源から情報を集めました。そして私は、その日、西海岸でも、たくさんの事が計画されていた事に気づきました。他にも、ニューヨークでも、土壇場で阻止されているものがあります。そして、その日の潜在的な死者数は、9.11で実際に起こった死者数の50倍くらいになるはずでした。だから、あれは神の裁きかと聞かれたとき、私は答えました。「いや、それは神の裁きではなく、実際には神のあわれみでした。」神の裁きが、どのようなものかを知りたければ、完全に全滅した都市を考える必要があります。天から火が降って来ることを考える必要があります。ほとんど、誰ひとりとして生き残れないような、恐ろしい地震を考える必要があります。考えてみてください…。そして、神の裁きがどのようなものを理解したいなら、黙示録を読んでください。だから今、私達が通っているすべてのことは、黙示録のヒントにすらなっていないのです。この世に降りかかる恐ろしいことは、そのようなことは…。聖書は、ダニエル12章にも、マタイ24章にも、黙示録も告げています。神が、イスラエルと教会のために立てておられるご計画がなければ、誰1人として生き残る事はない。つまり、これらはひどくて、恐ろしいものなのです。ほら。はい、COVID19がありますが、それを見てください。私達を見てください。私達は皆健康です。皆無事です。自分たちの国の中を旅しています。私達は朝の散歩をして、美味しいものを食べます。つまり、何言ってるんですか…現実を直視しましょう。生活はそれほど悪くありません。地震が絶えず世界を震撼させているわけではなく、硫黄が天から降って来ているわけでもありません。太陽の炎熱で、人が焼き焦がされているのでもありません。そうではありません。今は、それに比べればピクニックみたいなもんです。人々は理解する必要があります。あなたは大患難の間、ここにいるべきではありません。私を信じてください。だれも。人々は死にたくても死ねないんです。（黙示録9:5~6参照）つまり、想像できますか…。死にたくてたまらないのに、死が逃げて行くのですよ？それが、大患難というものです。人々は大患難が、まるで何か…「今、イエスを受け入れなくても、その時に賭けるよ。」そんな賭けはしてはいけません！絶対に！

[マイク牧師] ちょっと思い出したのは、よく、「聖書的な規模の疫病や災いだ」というフレーズが使われますが、それは…、どういう意味でしょう？聖書的な規模。それは黙示録の規模、エジプトへの裁きの規模を意味します。それはつらいですよ、皆さん！キリストにあって敬虔に生きようとする者は迫害を受けます。しかし、なんとということでしょう。この大患難は、アミールとバリーが言ったように、全く次のレベルです。

次の質問はグレニスからです。

Q：「私達がイエスを待つときに、”私達のともしびの油を持つ”、というのは、どういうことでしょうか？」

恐らく、グレニスは、油を持った乙女たちのたとえ（マタイ25:1~13）を言っているのだと思います。バリー牧師、それはどういう意味ですか？

[バリー牧師] ええ、あのたとえで、油は聖霊を象徴していて、そして、この特定の問題については多くの混乱があります。ある人は、神がなさっていることに同調せず、部分的に聖霊に満たされているのだと解釈し、彼らは携挙やそういったものへの準備ができていない、と。私は、イエスが描写されたのは、ただ、準備が出来ているかどうかだと思います。あなたの芯を整え、ランプが満たされるように、完全に期待に満ちて生きるのです。結婚式の祝宴が始まり、花嫁が挙げられ、父の家に連れて行かれる時間です。多くの素晴らしい人々が、このことについて他の大きな説明をしていますが、私は、私達に肉ではなく、御霊にあって歩むようにと言っているのだと思います。準備万端、支度を整えて、「瞬く間に」超自然的な領域に移動して、永遠に主と一緒にいる事を期待しているように。

[マイク牧師] アミールは、どう思いますか？

[アミール] このたとえ話を読むたびに思うのですが、私にとっては、信仰と宗教の違いだと思います。キリスト教を信仰する家庭に生まれたから、自分はキリスト教徒だと、どれだけ多くの人々が言っているのかわかりません。または、出生証明書に「クリスチャン」と書いてあるから、とか。でも、だからと言って…。ほら、イエスはおっしゃいました。多くの人々が、「主よ、主よ、私達はあなたの名によってあれをしました、これをしました」と言うが、彼は言われます。「わたしから離れて行け。わたしはおまえたちを全く知らない。不法を行う者たち…」(マタイ7:23参照) 私が言いたいのは…。ちなみに、私はマフィア映画の大ファンです。ゴッドファーザーとかそういう類たぐいの。それが、こういった悪党達は、いつも日曜に教会に行っています。そして、彼らは、いつも結局…。ちなみに、イスラエルでも、イスラエルでさえ、ほとんどすべての犯罪者が、最終的にはキッパを被って法廷に現れ、メズーザ(門柱)にキスをして演技をするのです。まるで、それで全てが解決するかのように、なんとか宗教に頼ろうとするのです。ですから私にとっては、御霊のうちに歩むこと、霊的な信者であること、御霊に導かれること、聖霊を持つことは、宗教家であることとは、ほぼ正反対です。そして、イエスが、ガリラヤとエルサレムでのミニストリーの目的の一つは、宗教が答えではないと人々に伝える為でした。そして、ご存じのように、彼がナザレの故郷にいたとき、そこにいたユダヤ人たちは、彼が、自分がメシアであると言ったから怒ったものではありません。しかし、イエスが、エリヤやエリシャの話をして、エリヤが…、エリヤは、実際にツアレファテのやもめのところへ行き、エリシャは、アッシリアのナアマンを癒しました。(第一列王記17:7~24、第二列王記5章参照) 彼らが、ユダヤ人であることが優先されないこと、何の優位性もないと気づいたとき、イエスが、彼らに「あなたの宗教では救われない」と言おうとしておられる事に彼らが気付いた時、その時、彼らはイエスを殺そうとしたのです。考えてみてください。こんにちも同じことが言えます。「キリスト教」という宗教、正教会やカトリック、またはその他の多くのバージョンがありますが、彼らのところに行って、ものすごく…、基本的なことを伝えれば、ヨハネ3:3に見られること、「人は、新しく生まれなければならない。」「新生した」という言葉を発明したのは、私達ではありません。ヨハネが書いているのは、イエスが、ニコデモへ言った言葉です。私が言いたいのは…、今日、誰かのところへ行って、「あなたは、新生しなければならない。教会に行くだけではダメだ。司祭に告白するだけではダメ。献金だけではダメだ。」と言えば、彼らは、もう少しで、あなたを殺そうとしますよ。彼らにとって、あなたは異端者です。だから、私が思うに、イエスが来られる日が来れば多くの人々が、今までずっと宗教ごっこをしていたことに気付くでしょう。「分かった! どうやって救われるんですか? どうすればいいんですか?」その時では、手遅れかもしれません。だから、今日が救いの日です。

[マイク牧師] 質問を拡大して、リンダからの質問です。

Q: 「乙女たちの、半分は準備ができており、半分は準備ができていないと言う数値的な意味はありますか? 世界の半分は準備ができていて、半分は準備ができていないという意味は、あるのでしょうか?」

それともバリー、「準備ができているか、できていないかのどちらか」という事でしょうか? リンダの質問について、どう思いますか?

[バリー牧師] 私は、それは単に、イエスが世の状態を示されたのだと思います。イエスの側なのか、敵対するのか、準備ができているか、できていないかの。それ以上の意味があるとは思いません。私達が期待している「取り去り」の最中に、そのレンズを通して物事を見れば、私は種まきのたとえ話を考えます。同じ福音の種を違う種類の土に蒔くと、その約25%が、それに応えるそうです。私は、いつも面白いと思うのです。もしかすると、それを示しているのかもしれませんが。わかりませんが。でも私は、「賛成」か「反対」、「準備ができている」か「準備ができていない」この2つであって、「5:5」とは読んでいません。しかし、ありがたいことに、「準備ができていない」状態から「準備ができている」状態に変更できます。そして、ただ主を救い主として受け入れ、神が、唯一の救いの手段として、御子を与えてくださったことを認めてください。

[アミール] アーメン！

[マイク牧師] そうですね！次の質問に移る前に、アミール、最終的な考えはありますか？

[アミール] いや、次に行きましょう。

[マイク牧師] そうしましょう。ブレントからの質問です。

Q：「黙示録6章の白い馬と、黙示録13章の反キリストの台頭^{たいとう}には関係があるのでしょうか？」

[アミール] バリーは答えてくれたと信じています。バリーは、具体的に反キリストの台頭に言及しています。彼が白い馬に乗って、ダニエルの契約のメッセージを携えて来ます。それが答えだと思います。

[マイク牧師] 分かりました。

[アミール] そうですよ、バリー？

[バリー牧師] ええ、彼です。

[アミール] ほら！

[マイク牧師] 分かりました。よろしいですか、ブレント。デボ、質問に答えます。アミールから。

Q：「エゼキエル39章で、イスラエルが燃料として武器を使い、7年間、人々を埋葬する時間枠を教えてください。」

そこに時系列があるのでしょうか？

[アミール] えっと…。いま言った時系列が、時系列です。つまり、他には何も見ていません。戦争が起こって、戦争の余波があります。それ以上のことはわかりません。物事を想定することはできますが、聖書だけにこだわるのであれば、これが全てです。恐ろしい戦争があり、願わくば、私達は、ここにいない方に一票です。しかし、ともかく、恐ろしい戦争が起きます。イスラエルは略奪のために侵略され、そして、国々は、私達から物を奪い、誰もイスラエルを助けません。そこから理解出来るのは、なぜ、携挙が起こるのが…恐らく、米国がイスラエルを助けに来ないというのも…。しかし、私は聖書に書かれていることを超えて、時間枠を与えることはできません。武器は、ある種、燃えるものになるでしょう。そうです、それに問題はありません。私は、人生の中で、一度も「その戦争の45秒後に反キリストが登場する」と言ったことはありません。中東では、戦争終結後、平和を実現するためには数ヶ月から数年かかることもあります。そして、その平和契約は、最終的には7年間の大患難の始まりを知らせます。エゼキエル書38-39章に関連して、この7年間の大患難が、いつから始まるのかを理解するには、これが最善の方法です。私が言えるのは、それが終わってからであって、それ以前の話ではない、ということだけです。なぜか？それは、7年の大患難の時期に何が起こるか、私達は知っています。そして、エゼキエルは、その一部ではありません。エゼキエルは、その前でなければなりません。これが、多くの人々がエゼキエルをゼカリヤ書12、13、14章と混同している理由です。彼らは、この2つを、まるで同じ戦争のように混同しています。これは、同じ戦争ではありません。エゼキエル戦争では、イスラエルは強く、安全で、安心で、繁栄していて、五つの国に侵略されます。それだけです。ゼカリヤが語るところでは…、ほとんどのユダヤ人はその地にさえいません。これは世界大戦です。世界中から人が集まってきます。何百万人も人がやって来ます。それは、彼らが反キリストに敵対し、そしてイエス・キリストに敵対して来る戦争です。それは全く違うシナリオです。繰り返しますが、この質問の答えは、エゼキエル38-39章に書かれていることを超えて、私は何も言えません。しかし私に言えるのは、私の聖書と終末論の理解では、エゼキエル書は大患難の前でなければならぬのに対し、ゼカリヤ書は大患難の終わりにある最終戦争です。

[マイク牧師] ええ、それに気をつけておくことが重要ですね。この質問を拡大して膨らませて、変化球を投げますよ、バリー牧師。このエゼキエルのマゴグ、ゴグの侵攻は局地戦です。それに対して、もう一方は、アミールが言及したように未来の出来事の終わりについて語ったもので、その時は地球規模です。そして、多くの違いがあります。だからこれらが同じものだと叫ぶなら、四角いものを、三角形の杭や溝に強制的に押

し込むことになります。この戦争は、いつ発生するのでしょうか？バリー、いつこれが戦争になるのでしょうか？私は、この質問を誇張しています。7年間の後始末の過程が、大患難の期間に流れ込む可能性があるのでしょうか？それについてどうお考えですか？

[バリー牧師] ええ、可能性はありますね。私が思うに…反キリストによって開始されるこの契約を見るには、エゼキエル書38～39章で名前が挙がっている人物に注目しなければなりません。そして、私達が生きている現代では、ニュースというレンズを通してそれを見ると、それは毎日起こっていて、そして、ここには、イスラエルの国にとって最も問題のある国々があります。全てに首を突っ込むロシアがいて、プーチンは、ツァー（ロシア皇帝）として、再び「母なるロシア」の栄光の日々を見たいと思っています。そして、自らが復活したオスマン帝国のスルタンとなって、カリフを再確立しようとしているエルドアンがいます。それから、イスラエルの破壊しか考えていないイランがいます。もちろん、2つの紛争地域があって、1つは、本当に紛争が拡大しているリビア、もう1つは、スーダン。あちらの問題に、彼らが関わっています。この特定の地域を見てみると、過激シハード主義のイスラム教の大部分を代表しています。したがって、この戦いが終焉を迎えたとき、神がご介入され、彼らを滅ぼします。そうすると、基本的には、イスラエルに対してより攻撃的な姿勢を取る者達が排除され、あとは傍観者、基本的には制裁、BDS（反イスラエル運動）、そういう群衆が残ります。じっと座って何もせず、ただ石を投げたい人達です。そして、基本的に、イスラム教の過激派が排除されれば、…少なくとも、このエゼキエル戦争では、最も過激で、最も攻撃的な国々ですから、これにより和平プロセス全体を前進させることができます。ですから、実際、すぐそこまで迫っていると思います。そして、それは、黙示録の全シナリオが前に進むために必要なことだと思えます。

[アミール] そう思います。バリーに同意します。彼がたった今言ったことは、非常に重要なポイントです。皆、それを理解しなければなりません。過激なイスラムが根絶されない限り、ユダヤ人が神殿の丘に神殿を建てることを許可することはできません。とにかく、それは上手くいきません。しかし、穏健なイスラム教徒が、エルサレムの神殿を受け入れることには一理あると思います。なぜかという、多くの人は知らないでしょうが、1920年代までは、アラブ人がエルサレムを何と呼んでいたか知っていますか？言っておきますが、マイク、あなたは、その言葉が分かるでしょう。アラビア語で、そこは、“ベイト・アル・マクディス”と、呼ばれていました。“ベイト・アル・マクディス”は、アラブ語の名前で、ヘブライ語で“ベイト・アル・マクディス”とは何か知っていますか？“ベイト・ハミクダシュ”、神殿です。1920年代まで、イスラム教徒共同体の思想で、彼らはエルサレムを、「ユダヤ神殿」と呼んでいたのです。それが突然、もちろん、ユダヤ人が自分たちの土地に戻り始めると、エルサレムを、イスラム教徒にとって世界で3番目に神聖な場所として再び所有すると言うのは、政治的なことです。歴史を通して、エルサレムに住んだり、エルサレムから統治したりしたイスラム教の指導者は、ひとりもいません。そして、我々はまた、彼らがエルサレムを聖地にした理由も知っています。西暦682年、メッカの人々の反乱があったとき、ダマスカスの人々が、はるばるメッカまで来ることを許可しなかったのです。彼らは、別の礼拝場所が必要で、彼らは突然、「オーケー…エルサレムがあるじゃないか！」と。そしてその時、彼らは、すべてのハディースを書き始めたのです。エルサレムに関する、すべての外部の書物、エルサレムを誇張して、そこに行くことを、なんとか正当化するためです。しかし、その反乱が鎮圧された途端、彼らは再びメッカに戻り始めました。すべて政治的なものでした。すべては政治的なものです。そしてその政治的なものが取り除かれた瞬間、彼らがエルサレムのユダヤ教神殿を受け入れる可能性が出てきます。そしてそれは、唯一、イランがいなくなり、トルコがいなくなり、リビアとスーダンがいなくなり、ロシアの干渉が無くならない限り、起こりえません。それで、私はその点でバリーを支持します…。事実を無視しないでください。ゼカリアは、イスラムとは何の関係もありません。エゼキエルは、その全てに関連します。

[マイク牧師] ええ、これは面白い…。すべてのリスナーにお伝えします。騙されてはいけません。パレスチナ人と、その指導者がしようとしていることは、エルサレムに関連する歴史を乗っ取って、ユダヤ人の相続をイスラムの相続に変えようとしているのです。間違っ^{たま}てはいけません！現在、世界的に起こっていることは、あるグループがいて、あなたの国の歴史を変えようとしているのです。そして、新しい物語に書き換え

て、新世界秩序へと誘導しようとしています。これ以上は言いません。大きな反論を呼びますから、それを避けて、その代わりに、カレンの質問に行きましょう。これは面白いです。バリー、

Q：「携拳された時、世界にどう説明されると思いますか？」

知事や、大統領や、国民は、その...何と言うのでしょうか？「私達が思うに、ここで起こったのは...」何？さて、もちろん、これも憶測でしかありません。でもバリー牧師、あなたが知っていることに基づいて私達がいなくなった後、世界が下すであろう、合理的な結論とは？

[バリー牧師] 携拳の後にここにいる誰かに聞いてみてください。私には分かりません。マイク。冗談ですよ。(笑)

[マイク牧師] いいね。いいね(笑)

[バリー牧師] おかしな話ですね。いろんな説明が飛び交っていますが、何年も前からニューエイジの人たちから聞いていたのですが、宇宙の浄化が行われ、不浄なものが取り除かれ、人間の進化が前進すると。宇宙人や宇宙人の拉致に、こんにちも魅了されているのは面白いですね。ここでは今、私達は本当に強力な運動があります。特にここ米国では、教会は、世界的な平和運動の敵対的な立場にあると見られています。私は思うのですが、権力者からの答えが何であれ、彼らは言うでしょう。「やっと彼らを排除した、これからは前に進むことができる。宇宙が宇宙を浄化した。エイリアンが来て…彼らを連れて行った。」もしくは「我々が、我々の望まない者達を処分した。」誰にも…私は10億人は消えてほしいと思います。一瞬のうちに、瞬く間に消えるクリスチャンが、地球の表面にそれぐらい、あるいはもっといる事を願います。でも、すでに反キリストの強い妄想が主要な世界なので、一部の人の口から出てくるものを、何でも信じます。最近、政治家から見聞きしたことのいくつかは、馬鹿げているを超えています！「だからこそ、歴史を破壊して、新しい物語を書き換えることが重要だと、私は思うのだ。」これは、ずっと存在して来た社会主義マルクス主義者の働きで、今、このグローバリズムを推進するための、ある種「グローバル思想」があります。だから、彼らがどう説得するかは分かりません。しかし、候補はいくつかすであって、どうでしょうね？私達は、人々が事実よりも寓話を信じる時代に生きています。

[マイク牧師] アミールはどう思いますか？

[アミール] いや、私は、自分が携拳された時に何を感じるかを考える方が好きですね。(笑)あの、正直…^{わがまま}我儘なのは百も承知ですが、周りがどう説明しようが構いません。私達がいなくなった時の彼らの気持ちとか、どうでもよいのです。彼らには、今、仲間に入るチャンスがあるのです。今、YES!と言えるのです。そして、もし、彼らがNOと言うなら…、それまでです。私は夜、ぐっすり眠りますよ…。ほら、マイク、もちろん私も、人々が救われる事を願っています。もちろん、人々には信仰を持って欲しいです。でも、彼らが拒絶するなら、私の出発が、彼らにとってどのようなものになるのか、説明するつもりはありません。私には分かりませんから。

[マイク牧師] 私は、私達の次の仕事は、イエスだという事実が大好きです。

[アミール] そうですね。

[マイク牧師] 私達が、今、目を向けるべき所はイエスです。この地上でも、彼が来られる時にも。

[アミール] アーメン！

[マイク牧師] それだけでなく、あなた自身が言ったように、私達が変わられ、私達の体が変わり、私の白髪が消えたとき、そして、頭が左右対称になり、腰痛もなくなります。そして、上に行くにつれて体重が一気に減り、見た目もスッキリ、イケメンに... (笑) 私が思うに、あなたの理論、それと他の人の理論どおり、この質問について、私達は一日中推測する事が出来ます。楽しい質問ですよ？でも、結局のところ、世の中

が何を言うか分かりません。バリー、私は、あなたがいくつかの可能性の高いシナリオを特定したと思います。アミールも。しかし、タイリーはこう言っています…。

Q：「患難後携挙」の教えの情報源は何ですか？この混乱は、どこから始まったのですか？」

[アミール] 聖書を正しく解き明かしていない…。みことばを正しく解き明かしていないのです。つまり、マタイ24章について話しましたが、たとえば、イスラエルについて語った部分は、実は教会について語っている部分で、そこにある「選ばれた者」という言葉は、教会を指していると考えれば、それから得られるのは…。イスラエルは、明らかに大患難を経験します。しかし、もし、あなたが間違った認識をしてイスラエルを教会と呼ぶならば、「教会は大患難を経験する」という考えに至ります。もう一つの主な混乱の原因は、第二テサロニケ2章です。もちろん、筆者のパウロは、具体的に2つのことを説明するところから始めますが、その後、詳しく説明しています。それが、もし、第二テサロニケ2:3の後で読むのを止めると、反キリストが先に現れて、そのあとに携挙が起こると考えてしまうのです。でも、読み進めていくと、順番が違うことが分かってきます。実際には、彼は患難の一部として登場するのです。しかし、引き止める者が取り除かれる前に、大患難が始まることは、あり得ません。だから繰り返しますが、私は、彼らが聖書を読んでいると信頼しています。彼らは、無邪気に自分たちが正しいと思っているのだと信じています。しかし、ここは、まず神のみことばを正しく読み解かなければならないと思います。まず、神のみことば、神のご計画、神のみことばを理解し、神のみことばを使って、神のみことばを解釈しなければなりません。私達は、神の御怒りに合うように定められていないなら、自問自答しなければなりません。「じゃあ、神の御怒りとは何だろう？」そして、ダニエル書を見れば、7年間、最後の一週間の全体が、「神の御怒り」として知られていることが分かります。ですから、聖書に戻って、自分の主張を立証しなければなりません。ある部分だけを読んで、少しずれた結論を出すではありません。ですから…、また繰り返になりますが、非常に基本的なことに戻ります。なぜイエスは、ぼろぼろの妻を望むのでしょうか？つまり、なぜ主は、その妻を拷問して、殺させてから花嫁にするのでしょうか？その背後にある理屈は、どこですか？私達は、花嫁として取り去られる準備万端で、ついさっき乙女たちの話で、一部は取られ、一部は残されると読んで、話をしたばかりです。花婿が来て、連れて行こうとしているのに、私達は、ここにいなければならないというのは、どういう理屈ですか？私達には約束があります。主が来られて、私達をご自身のところへ連れて行き…ご自身の元^{もと}に迎えてください。私達にはもう一つの約束があります。私達は、この世に降りかかる試練の時から守られるのです。（黙示録3:10参照）聖書に沿って多くの箇所で見られるように、神は、絶対に、イエスの花嫁である教会が、そういった事を経験するようには意図されていません。そして、教会とイスラエルを混同すれば…、多くの場合、イスラエルは、もはや神の民ではないと考えるため、多くの場合、あなたが置換神学^{ちかかん}を信じているからです。しばしば、全体を通して、特に大患難の終わりでさえも、彼らには、もはや特別な計画はないと考えるなら、その時、あなたは間違った結論に到達します。ですから、繰り返しますが、大患難が教会のためにあると思っているなら、他の部分でも、間違っ^{まちが}て聖書を読み解いてしまいます。イスラエルに関連するものは特に。

[マイク牧師] そうですね、確かにバリー牧師、終末の時について語るすべての聖句を集めてみれば、患難後携挙説を立証するのは、確かに最も困難なことです。確かに、いくつかの聖句を文脈から外して、そのような結論を出すことはできます。なぜこのような見解が支持されているのでしょうか。一体、何でしょう。また、あなたが「患難後携挙」を信じない理由は何でしょうか？

[バリー牧師] まあ、私が思うに、置換神学の問題から始めると、最後には、結局、患難後携挙の問題で終わります。明らかに、イスラエルは大患難を経験しますから。そして、教会がイスラエルに置き換えられたのであれば、必然的に、教会は大患難時代を経なければなりません。しかし繰り返しますが、では第一テサロニケ5:9は、どうなりますか？私達、キリストのからだは御怒りに会うようには定められていない。十字架の上のキリストは、どうなりますか？そこでは、私達の罪の代わりに神の御怒りが満たされました。そして、私達に課せられた責任は、救われるために福音のメッセージを受け入れて受け取り、キリストを信じる事です。ですから、これはコロサイ1:24が告げている事と、浄罪界の誤ちに、ほぼ分類する事が出来ます。私達

はキリストの苦しみを補って地表から取り去られるに相応しい者になるために、なんらかの形でもっと苦しまなければならぬ、と。私が考えていることの一つは、これは聖書の中で証明出来ないだけでなく、個人的な問題として、患難後携挙説の目的は何ですか？何から逃れるのですか？上に行って、栄光の状態に変えられて、イエスとともに、すぐ下に降りてくる。つまり...、その全ての目的は何ですか？すべての注意喚起、私達は朽ちない体に変えられるとか、そしてパウロがテサロニケの教会に記述したことは、どうするのですか？だから、それは...。アミールが指摘していたと思いますが、常に必要なポイントは、大患難全体が御怒りであるということです。ですから、教会の携挙に、その時期に関する唯一、証明可能な立場は、大患難の始まりとなる不法の者が権力を握る前であると、私は信じています。教会は去らなければならないので、患難前携挙が、唯一の聖書的立場であると私は考えています。

[アミール] ああ、マイク…。一つだけ追加してもいいですか？時々、私達は、本当に患難前携挙を証明したくて、そうすると、聖句の解釈を誤るという問題に陥ることがあります。”アポスタシア”という言葉が、地球からの物理的な出発であると考えたり。いいえ！そうではありません。携挙前携挙を立証する方法は、他にもたくさんあります。でも、その^{わな}にはまらないように。なぜなら、それで、あなたが間違いである事が証明されたとき、人々は、あなたに反対する他のすべてのケースで、それを利用しますから。いいえ、アポスタシアは、マイクが「大なる背教」のメッセージで見事に説明したように、新約聖書の中でもう一回、使徒の働きで出て来ます。そして、それは信者の肉体的な出発とは何の関係もありません。それは真理からの離脱、あるいは信仰から離れる事と大いに関係しています。そして繰り返しますが、私達は泣く必要はありません。なぜなら、その直後、第二テサロニケ2章を読み進めていくと分かります。パウロは決して、絶対に、教会が大患難を経験する、とは言っていない。彼はこう言っています。「なあ、ちょっと待って…。そうです！大きな背教がある。そうです！反キリストが出てくる。」それが、大患難ですから。しかし、その反キリストが現れるには、その前に引き止める者が取り除かれなければなりません。ですから、みことばを正しく読み解きましょう。そして、何か正しいことを証明しようとするときも、正しい方法でやりましょう。一部を文脈から取り出してはいけません。なぜなら、それは患難中期、または患難後携挙説の人々が、いつも私達を非難する時にしている事です。私達は本当に、正しくみことばを読み解いていない、と。ですから、繰り返しますが、時々…イスラエルと同様です。イスラエルを置き換えている人たちがいて、しかし、イスラエルを過剰に愛する人達は、イスラエルにはキリストは必要ないと考えます。つまり、時には正しいことをしようとして、間違った方法でそれをしてしまいます。

[マイク牧師] はい、確かに。第二テサロニケ2:3にある、ギリシャ語の「アポスタシア」という言葉は、一部の翻訳では、「出発」または「脱落」、または完全な「反乱」…そして私達、患難前携挙派の者としては、神学的には、それが携挙であることを望みますが、しかし、私達は責任ある解釈学者でなければなりません。私達は、聖書全体に責任を持たなければなりません。そして、「アポスタシア」という言葉の意味は、反抗や墮落です。それが「携挙」だと主張している人々の立証でさえ…、彼らは言います。「見てください。欽定訳版の前に出された古い英語の翻訳が、それを”出発”と告げています。」そのうちの一つが「ジュネーブ聖書」です。そして、実際のジュネーブ聖書の説明の中で、彼らは「私達は、これは『離脱』という意味だと考えています」と言い、そこに「出発」という言葉を使っています。これは悪い言葉ではありません。真実ですから。しかし、神学的に、自分の見解を聖句に重ね合わせて、神学的に一貫していると感じたいのは分かりますが、そうするのは、よくありません。そして、患難前携挙そのものが立証出来ようと、出来なかつと、それは聖書全体の、最善の見方です。患難後携挙の見解は、本当に欠けています。それは本当に…おそらく最も弱い見方です。皆さんにも、それが見える事を願います…。

これより先、配信が中断しました。2週間後のQ&Aをお楽しみに！



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2020.09.30 (Wed)